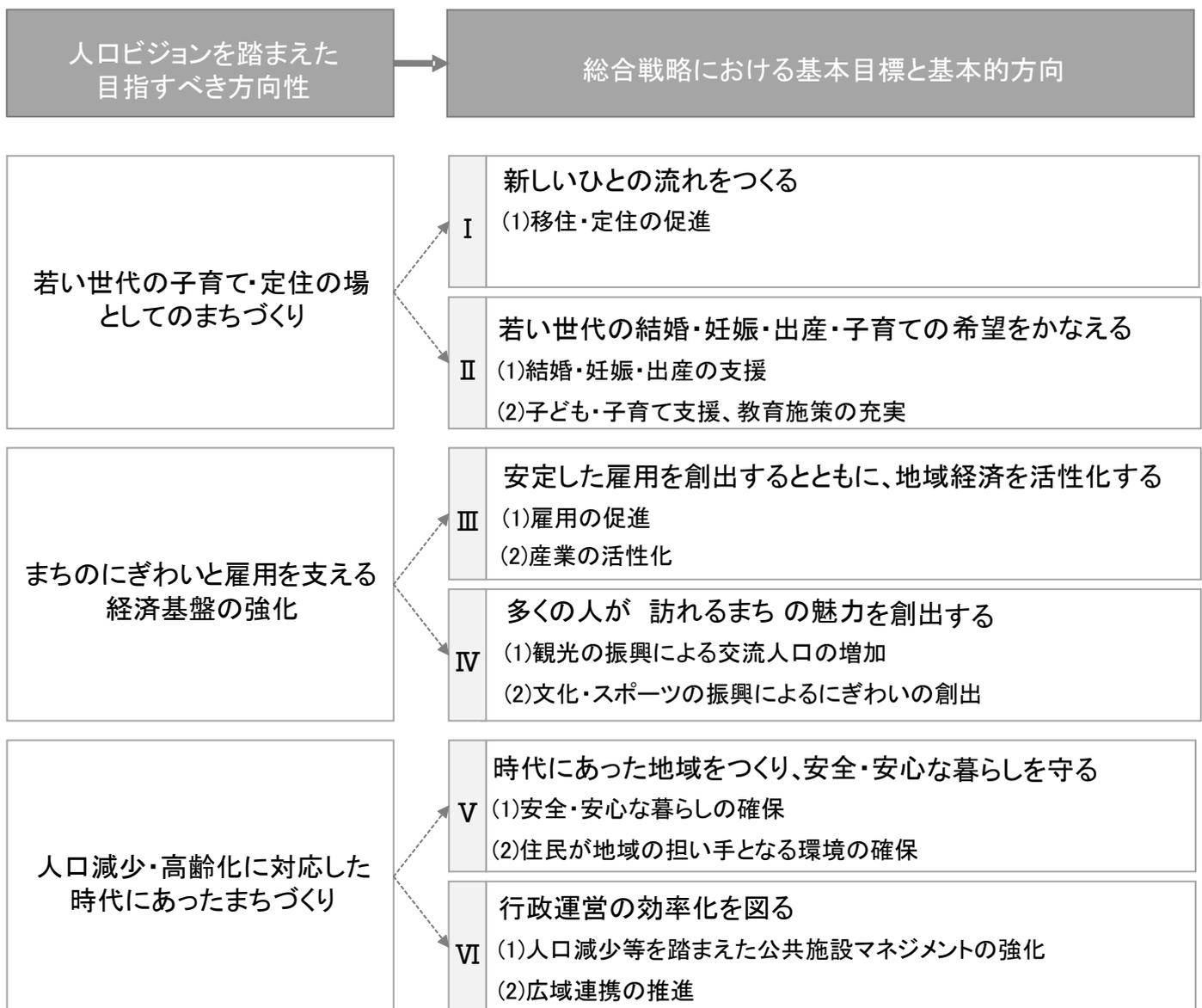


1. 富田林市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

- ・国は、平成 26 年 11 月に制定した「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国、都道府県、市町村に対して、地方創生に向けた今後 5 年間の目標や施策等を示す総合戦略の策定を求めた。これを受け、本市では、平成 28 年 3 月に「富田林市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。
- ・総合戦略は、人口ビジョンの将来展望の実現に向けて、本市が平成 27～31 年度の 5 ヶ年に取り組むべき施策について、客観的な指標とあわせて定めたもの。
- ・総合戦略では、人口ビジョンで提示する「3つの目指すべき方向性」を踏まえた 6 つの基本目標を定め、その実現に向けた基本的な方向を設定している。



2. 総合戦略策定後の本市の人口動態と特徴

- 平成 28 年 3 月の総合戦略策定以前から人口減少が続く中、近年 1,000 人を下回っていた減少数は、平成 30 年 3 月末に一時 1,000 人を上回ったものの、平成 31 年 3 月末には再び 1,000 人を下回る結果となった。

その主な要因は社会減が少なくなったことによるものと考えられ、戦略策定後では、社会減が最低値となっている。

- 近年の出生数は、平成 27 年 3 月末には一時的な増加が見受けられたものの、その後は減少が続いており、出生と死亡による自然増減においては、死亡者数が出生者数を上回り減少数が拡大している。さらに、高齢化率においては、対前年比の増加率では、年々減少傾向にあるものの、平成 31 年 3 月末の高齢化率が前年度を 0.63% 上回るなど、少子高齢化に歯止めがかからず上昇傾向が継続している。

富田林市人口動態表

(参考)

	H25.3 末	H26.3 末	H27.3 末	H28.3 末	H29.3 末	H30.3 末	H31.3 末	R1.10 末
世帯数(戸)	49,799	49,877	50,133	50,322	50,582	50,763	51,099	51,377
人口(人)	117,521	116,489	115,601	114,646	113,709	112,594	111,628	111,178
人口増減(人)	△1,040	△1,032	△888	△955	△937	△1,115	△966	
人口増減率(%)	△0.877	△0.878	△0.762	△0.826	△0.817	△0.981	△0.858	
高齢化率(%)	24.25	25.44	26.56	27.54	28.31	29.00	29.63	29.84
出生数(人)	765	716	780	734	716	706	618	
死亡者数(人)	1,040	1,128	1,089	1,101	1,118	1,158	1,199	
自然増減(人)	△275	△412	△309	△367	△402	△452	△581	
転入者数(人)	3,713	3,622	3,418	3,746	3,516	3,466	3,605	
転出者数(人)	4,477	4,242	3,997	4,334	4,051	4,129	3,990	
社会増減(人)	△764	△620	△579	△588	△535	△663	△385	

3. 平成 30 年度取り組みの進捗管理

- 総合戦略に基づく 6 つの基本目標に対して、施策の実施成果や進捗状況を評価し、次年度以降の施策の推進へと反映し、必要に応じて、戦略の見直し修正を図るなど、PDCA サイクルに基づく効果的な総合戦略の実施に繋げるために、総合戦略の進捗について、6 名の有識者から意見を聴取のうえ、その方向性について点検した。

4. 基本目標にかかる外部有識者の個別意見（要約）

● 目指すべき方向性 「若い世代の子育て・定住の場としてのまちづくり」

基本目標Ⅰ 新しいひとの流れをつくる

基本目標Ⅱ 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

・新しい策を講じてチャレンジしているが、すべての市町村が同じような試みをしている今、さらに市の魅力について掘り下げ、発信することが必要であるとともに、「子育てするなら富田林」を推し進めるために、世の中の変化・ニーズに対する対応力が求められる。

・情報はSNSを活用し、見る時代からつぶやく時代へ変化していることから、時代の流れに従いながら、知名度向上に向けて市の目玉となる魅力を戦略的にプロモーションすべきである。

・少子化の原因は、子育て支援の不足等だけではなく、日本社会に深く根差した慣行や価値観に由来するものが少なくないと思われ、そうした諸原因はまさに男女共同参画社会の構築にかかわるものであり、取り組みの検討などにおいては、市における男女共同参画に関する目標や取り組みとの整合性をはかることが望ましい。

・ホームページを他市・他府県からファーストタッチで見てもらえる仕組みや様々な取り組みで富田林市を知ってもらうことが必要と考える。

・ポータルサイトを魅力あるものに仕上げ、ホームページでの情報発信を活用して人を引き込むことも必要ではないか。

・子育てママやインフルエンサーなどを活用し、住民主体で情報発信してもらってはどうか。

● 目指すべき方向性 「まちなのにぎわいと雇用を支える経済基盤の強化」

基本目標Ⅲ 安定した雇用を創出するとともに、地域経済を活性化させる

基本目標Ⅳ 多くの人を訪れるまちの魅力を生み出す

・数年で実現化できることではなく、継続し、さらに磨きをかけ、次の種まきをどうするのかを検討する時期でもある。

・民の力を活用するなど、市内施設の特徴を活かせる方法を考えてはどうか。

・中長期的な視点で市における観光促進策を見ると、ハード部分の整備がよい方向で進んできていると観察しているので、ソフト部分について、環境⇄社会⇄経済をアピールし、自然の豊かさを活かし、人を呼び込むことが必要と考える。

・商業の活性化は、土地の有効活用を積極的にできるまちづくり都市構想を、短期的・中期的・長期的に検討することで、可能性が広がると考えられる。

・道路等のアクセス整備も含めた企業誘致が必要ではないか。

・市の特性を活かし、若者に遊びに来てもらう施策やまちづくりを検討してはどうか。

- 目指すべき方向性 「人口減少・高齢化に対応した時代にあったまちづくり」
基本目標Ⅴ 時代にあった地域をつくり、安全・安心な暮らしを守る
基本目標Ⅵ 行政運営の効率化を図る

- ・身近な市民対策をいかに目標達成できるか、もっともっと市民をまき込むことを考えるのも大切ではないか。
- ・防災分野における、情報管理の進化とインフラ整備の充実が必要と思われる。
- ・高齢者対策では様々なデータを活用し、ニーズにあった効率的な施策運営を目指してはどうか。
- ・人口減少・高齢化、また今後、予想される震災を含む災害などの安全・安心にかかわる事象を考えると、市・NPO・地縁団体などの努力により増加する市民公益活動をどのように維持し、持続可能性あるものにするのかを検討し、次の5年・10年に備えることが重要である。
- ・人口減少は止められない状況を理解し、コンパクトシティ化・高齢化対応のまちづくりを進めてはどうか。
- ・空き家対策や、女性視点でのまちづくりが必要と思われる。

5. 外部有識者の総合意見

有識者の一致した主な意見は次のとおり

・地方創生の推進

総合戦略の目標達成や地方創生の推進に向けこれまで様々な施策に取り組んでいるが、長期的に継続していくことが重要であるとともに、検証により今後につなげる必要がある。

・民間活用による独自性の創造

行政主体から民間主体にシフトし、さらに特徴ある施策に取り組み、他市との差別化につなげるとともに、独自性のあるネームバリューをつくる必要がある。

・情報発信力で新しい人の流れにつなげる

情報発信は、マンネリ化を打破し工夫を凝らすことが必要で、行政だけでなく、住民や様々な人を巻き込むことにより、繋がりや広がりを生み出し、まちに新しいひとの流れができる。

・地域性を踏まえた安全・安心なまちづくり構想

地域の実情に沿ってスモール化・民営化などを踏まえたコンパクトなまちづくりの構想により、時代にあった地域づくりにつなげるとともに、防災の観点をさらに主流化させる社会の形成に取り組む必要がある。

6. 進捗にかかる検証（総評）

本市では、「富田林市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における目標の達成に向けて様々な取り組みを実施するとともに、平成30年度地方創生推進交付金を活用した「農を活かした産業連携による仕事創出事業」にも着手した。

戦略策定後4年が経過する中での効果検証においては、概ね達成状況は順調で、取り組みの中では一定の成果も見られる。しかし、地方創生という大きな課題に対しては、短期間で結果に繋がるものではなく、中・長期的な視点に立ち、地道に取り組む、今後につなげる必要があることから、引き続き戦略に基づき、効率的かつ着実に各施策に取り組むとともに、成果や進捗状況などについて継続した検証及び管理を行っていく。